



岡山県・梶谷佳希先生より

車で約半日をかけて、岡山県からお越し下さった梶谷佳希先生。
お便りをさっそく紹介します。

渡辺先生の授業を参観して

倉敷市立第四福田小学校 梶谷 佳希

教室に着いて、まず思ったことが「とてもあたたかい雰囲気」だということです。

渡辺先生の人柄はもちろん、渡辺学級の子どもたち、一緒に参観する先生方の表情もすてきでした。

すてきな人の周りにはすてきな人が集まるのは本当なんだなあと改めて感じさせられました。

【授業を通して考えたこと】

まず、私自身がここ数年授業をする際に特に意識していることは、「子どもたちを簡単に飽きさせない」ことです。

YouTube が流行り、テンポのよい動画や短い動画が多く再生回数を稼ぐことができる時代になりました。

さらに、TikTok がリリースされたことでさらに短い動画が好まれるようになりました。

今では、10秒～20秒ほどの動画が一番好まれており、私たちの飽きのはやさを加速させています。

このような時代を生活している子どもたちですから、当然ちょっとやさそと

の工夫では太刀打ちできません。

45分間座って授業を受けるなんて到底無理な話です。

日本で有名な Youtuber ことヒカキンさんは、3～5秒に1回は効果音を入れたり、テロップを入れたりすると以前聞いたことがあります。つまり、飽きさせない工夫を数秒に1回行なっているということです。

渡辺先生の授業もまさに、飽きさせない工夫の連続でした。

目を合わせる、微笑む、褒める、認める、立つ（運動）、書く、声を出す、曲を流す、見通しをもたせる、基準を示す、高得点を与えるなど、あらゆる部分に技術が詰め込まれていて、参観している私も一瞬たりとも暇な時間がありませんでした。

授業は、ほとんど前方から見させていただきました。

研究授業などでもそうですが、後ろから子どもたちの背中を見るよりも、前方から子どもたちの目を見る方がどのタイミングでスイッチが入ったかが分かります。

渡辺学級の子どもたちは、常に目がきらきらしていたので、なかなか見分けることができませんでした。次の活動に移るときにパッと目を見開くときがありました。見通しがもっているからこそ、それが表情に現れるのだろうなと思いました。

1時間目の授業では、45分という時間でたくさんの活動を見せていただきました。

暗唱・計算・地図・フラッシュカード・都道府県テスト（県庁所在地）・音読レース・辞書引き・指名なし音読・百玉そろばん・視写など普通だと考えられないような活動量で、学習発表会を見たような気分になりました。

百玉そろばん以外は、私のクラスでも毎日実践しているのですが、スピード感が全く違うなと感じました。

授業後の振り返りで、渡辺先生がジョイントの部分を大切にしているとおっしゃっていましたが、授業中に「いつ活動が切り替わったのだろう？」と思うほど、自然に次の活動へ移っていく様子は、まさに神業でした。

暗唱の量（私の学級の2倍の量を読んでいた）、計算の説明（あげてんのネーミングがしっくりきました）、子どもたちで出題する地図帳、フラッシュカードを提示するスピード、都道府県テスト（地図を印刷して書き込む形ではなく、子どもたちが簡単な図形で地方を表現して書き込んでいるのに驚きましたし、ぜひまねしたいと思いました。）、百玉そろばんのはじき方や子

どもたちが唱えるタイミング、動的な活動で発散させた後の静的な活動である視写など、それぞれの活動で取り入れたいことがありました。

ドーパミンやセロトニンが分泌されるであろう活動や手立てを常に打たれていて、私が子どもだったら、「毎日学校に行きたい！」と思うだろうなあと感じました。

道徳の授業では、「仕事」がテーマでした。子どもたちの「仕事はお金を稼ぐためにするもの」という価値観や考え方をもとに「ズレ」を生じさせる授業展開が圧巻でした。

ランキングをつけることによって、「なぜその順位をつけたのか」自然と理由を考えたくくなります。私

もランキングをつける時は、迷いましたし、本気で思考したからこそ他の人の考えを聞いてみたいと思いました。

あいさつ、そうじ、質問、応援…などの普段学校生活で行なっていることが仕事につながるかどうか。

子どもたちが「話したい！」「言いたい！」と思える工夫がすてきでした。

私は、この流れだと「すべて何かしらの仕事につながるのだろうか」と思っていたのですが、百人一首だけは、まだ仕事化されていないと聞いて、子どもたちと同様にやられたなーと悔しくなりました。

たぶんですが、このあたりで子どもたちの発言がかなり盛り上がってきて、一般的な学級で言う「さわがしい状態」になっていました。

渡辺先生ならどうやって進めていくのか気になっていたところ、谷口君がつぶやいた言葉を「そうそうそう！」と取り上げて、全員の集中を自分の発言から谷口君の意見に向けさせていました。

きっと渡辺先生は、「静かにさせたいから谷口君の発言を取り上げた」のではなく、「谷口君の発言に光るものがあったから、みんなに共有した」のだろうと思います。

私たちは、いろいろな手段を使って「静かにさせる」ことに注力します。子どもたちの「やりたい！」

という気持ちよりも、自分自身の「授業をスムーズに流したい」という気持ちが勝ってしまいます。

改めて、意識して日々過ごしていかなければと反省する場面でした。

それぞれの仕事も大人でも知らないエピソードばかりでした。

あいさつなら伝説のドアマン、けん玉なら伊藤さんなど、どれももっと知りたいと思うエピソードでした。渡辺先生の圧倒的な読書量と経験値が存分

に発揮されている瞬間でした。

最後の「お母さん」という仕事にたどり着くまでの流れでは、1時間の授業の中で思考してきた仕事という概念を一気に変えていきました。途中、「かかしです！」と発言したときもこやかに意見を受け入れる渡辺先生とクラスのみんながすてきでした。

いろいろな仕事を知ったからこそ、身近な人の大切さに気付くことができると感じました。

1時間目の授業と同じように、たくさんの活動を取り入れて発散していく→最後は落ち着いた活動やしんみりとした空気にもっていく授業の緩急がただただすごいなと思いました。

渡辺先生の道徳は、「価値の押し付け」をしないところがすてきです。「授業を研ぐ」の授業動画でも、「大人」について考えるときに、多方面から大人について考えていきましたが、「こうあるべきだよね」という押し付けは一切ありませんでした。

今回の授業でも、「仕事」について子どもたちはたくさんの情報を受け取っていましたが、「これが答えだ！」「先生はきっとこれを言ってほしいだろうな！」という姿は見られませんでした。

あくまでも「自分はどう考えるか」が大切で、道徳の授業で目指していかなければならないなと思いました。

個人的にですが、渡辺先生の道徳の「余韻の残し方」がとても好きです。

振り返りを書いて発表させる、エピソードを話す、動画を見るなど道徳の終末だけでも悩みます。

言葉で言い表しにくいのですが、ほどよい充実感で授業を終えることができるのも技術（余韻の残し方のうまさ）だなと感じました。

授業全体を通して、「えーっと」や「あー」などのフィラーが全くなく、聞き心地がとても良かったです。私も毎日意識して生活していますが、無意識のうちに出てしまうことがあるので、さらに気をつけていきたいと思いました。

【早速クラスで取り入れたこと】

- 暗唱の量を増やしたこと
- 都道府県テストを簡略化して、ワークシートがなくてもできるようにしたこと
- 百玉そろばんを5年ぶりにやってみたこと

- ・授業中のつなぎの部分を自然にすること（活動と活動をかぶせていくこと）
- ・常に心に余裕をもって笑顔（ご機嫌）でいること
- ・褒めたり認めたりするタイミングを見極めること

【まとめ】

最近の自分は、有名なノミの話にもあるように、自分自身に蓋をしてしまっているなど一日参観したことで気付かされました。

毎日、一生懸命頑張ってはいたのですが、7年目になり、「器用にサボること」を覚えてしまっていたように思います。

今回、参観させていただきのおかげで、自分のやる気スイッチがもう1度入りました。

急なお願いをしてしまったにも関わらず、許可してくださった渡辺先生、2次会で美味しい料理をごちそうしてくださった奥さん、本当にありがとうございました。

世の中には、「すごい人」はたくさんいますが、「まねしたい」と思える人は多くありません。

その中でも、「尊敬できる人」はさらに少ないと思っています。

私にとって渡辺先生は、「心から尊敬できる人」です。

たびたび失礼なことも言うてしまうかもしれませんが、これからも学ばせてください。

貴重な経験をありがとうございました！

梶谷先生のお便りには、「プロ」としての視点があちこちにちりばめられていましたね。

みんなが読んでも「？」となる文章がいくつもあったと思いますが、プロの教師を目指してひたむきに自分を磨いている先生ならば、いずれも共感できる文章ばかりではないかと思いました。

どんな世界にも、素人と玄人があります。

「見えない部分」がこれだけ見えている梶谷先生は、まさにプロだなと感じました。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>



